

教校部「仏教学（唯識）」上野隆平

昨年度は、船山徹・石垣明貴紀『唯識』を教科書に、唯識学の基礎を概観しました。本年度は、その理解をさらに広げ、中国や日本の仏教に大きな影響を与えた『大乘起信論』を講読します。

『起信論』は、厳密な意味での唯識文献ではありませんが、その根底にある「一心二門（心真如・心生滅）」の構造は、唯識のアーヤ識説と如来蔵思想を統合しようとした試みの結晶です。大乘仏教の根本教義が巧みに要約されており、浄土教を含む日本仏教の一つの教理的支柱ともなりました。

講義では、岩波文庫の『大乘起信論』をテキストに用います。近年の研究成果や真宗教義との接点についても触れながら、まずはその要点を着実に読み解いていきたいと思います。古典的な名著を通じて、大乘仏教の哲学的エッセンスに触れる一年にしましょう。

なお、講義の導入として、毎回、『ダンマパダ』を少しずつ読み進め、釈尊の素朴な教えに触れる時間を持ちます（学院部の「仏教要論」と同様）。『起信論』とは直接関係しませんが、これはこれで楽しんでもらえたらと思います。

・宇井伯寿・高崎直道訳注『大乘起信論』岩波文庫、¥980（税別）

・今枝由郎訳『ダンマパダ　ブッダ真理の言葉』光文社文庫、¥740（税別）

【オンラインでの受講をお考えの方へ】

担当者は『起信論』や中国仏教の専門家ではありませんので、講義は初学者向けの基礎的なものになると思います。ただ、この数年、個人的に世親『浄土論』を熱心に読んできたこともあり、菩提流支の訳経論と用語法において共通点が認められる『起信論』には関心をもっています。授業ではその辺りの問題についても触れてみたいと思っています。受講をお考えになる際の参考にしてください。